



単価改善に向けて粘り強く運動を続ける沖縄ダンプ支部の仲間たち



組織拡大、使用促進で躍進に向けて奮闘しよう（12月22日福島県郡山市内）

生コン・建設業界は 違法な過積載なくせ

沖縄ダンプ

生活できる単価を求める 決起集会に一〇〇名参加

12月8日（日）、沖縄市内において、ダンプの過積載根絶と運搬単価改善を求めて決起集会を開き、生コン専属のダンプを中心に、他支部・分会の仲間、県労連等の参加者を含めて約一〇〇人の仲間が結集しました。

沖縄ダンプの東江議長が主催者あいさつの中で、「①4月に名護警察署は各生コン工場に対し、『過積載補助の疑いがある』として『警告書』を送付。②名護警察署の指導を受け、各生コン工場は積荷を減らしたがダンプの単価は据え置き。③ダンプキャリアバン要請行動では、県・国・県警本部・生コン業界・建設業界団体に対し、過積載根絶とダンプの単価改善を求めた。④8月25日、ダンプデモを実施し、県内のマスコミが取り上げて大きく報道した。⑤翌26日、沖縄県議会の喜納昌春議長に陳情書を提出。⑥11月4日～9日まで6日間のストライキを決定し、運搬単価改善を求めた。⑦11月14日、内閣府沖縄総合事務局経済産業部の部長名で『過積載の防止について』の通達を7業者団体に送付し指導する。⑧11月18日、内閣府沖縄総合事務局陸運事務所の所長名で『過積載運行撲滅の協力願ひ』の通達を14業者団体と94業者に送付し指導」と、闘いの経過に触れ、今日まで改善されず集会開催に至ったことを報告しました。

来賓あいさつでは沖縄県議会4会派（社民・護憲、県民ネット、共産党、そうぞう）の代表者が登壇し、「過積載根絶と運搬単価の改善に向けて奮闘します」と表明しました。仲間の生活実態の報告を、

定期大会 使用促進闘争を推進し 地場単価を改善しよう

秋田ダンプ

秋田ダンプ支部は、11月30日（土）に秋田市内で第27回定期大会を開催しました。

この1年間にダンプ・建設労働者の労働条件改善の取り組みとして「建退共証紙の貼付活動、労災保険の加入促進、使用促進闘争」で奮闘しました。特に使用促進措置が取られた国交省の現場で、4万5千円の単価で就労していることが影響し、他のダンプの単価引き上げられた事や県トラック協会のダンプも建交労の取り組みを参考にして、荷主に運賃改善（1日5万円弱が必要）を要求していることが出されました。

さらにこの間、新しいダンプ労働者も加入し、私たちの周りには組合員を増やす条件はあることを確認しました。大会議案で示された運動方



要求闘争を前進させ、組織拡大に活かそう（11月24日静岡県静岡市内）

使用促進・職場闘争 組織拡大に活かそう

静岡ダンプ

静岡ダンプ支部は、11月24日（日）に静岡市内で第13回定期大会を開催しました。

使用促進、職場など各委員会の代表者、地域分会から15名が参加しました。

村松大司委員長は開会あいさつで、「燃料費の高騰などの厳しい状況の中、日本道路静岡分会の公然化や職場闘争委員会との闘い、使用促進闘争で単価や現場における安全確保を目指す闘いなどの独自闘争を進展させ、組織拡大で奮闘しよう」と参加者に呼びかけました。大会議案を高橋書記長が提案し、新年度方針は満場一致で議案を可決しました。最後に村松委員長の発声で「団結がんばろう」をおこなう大会を終えました。

組織拡大・使用促進 躍進に向けて奮闘を

福島ダンプ

12月22日（日）、福島ダンプ支部は第28回定期大会を開催しました。代議員総数33名に対し、代議員24名、傍聴1名の仲間が参加しました。

今年度も組織拡大と使用促進闘争に旺盛に取り組み、要求実現に向けて奮闘し、躍進することを誓いました。

新年度役員は次の通りです。

役員体制

執行委員長 井垣 剛
副執行委員長 森谷 稔
書記長 瀧柳 勝彦

役員体制

執行委員長 村松 大司
副執行委員長 野川 正一
書記長 他4名
高橋 立顯